

萬葉類葉抄補闕

言詞

二

知 遠 加
奴 和 5

	八	和
	五	書
	三	門
一	九	
五	五	
五	八	
冊	架	函
號	類	

庫文閣内	
二〇〇	八五三
函	一五八
三	五
架	冊
號	類

内閣文庫	
番號	和 8538
冊數	15 (2)
函號	200 199



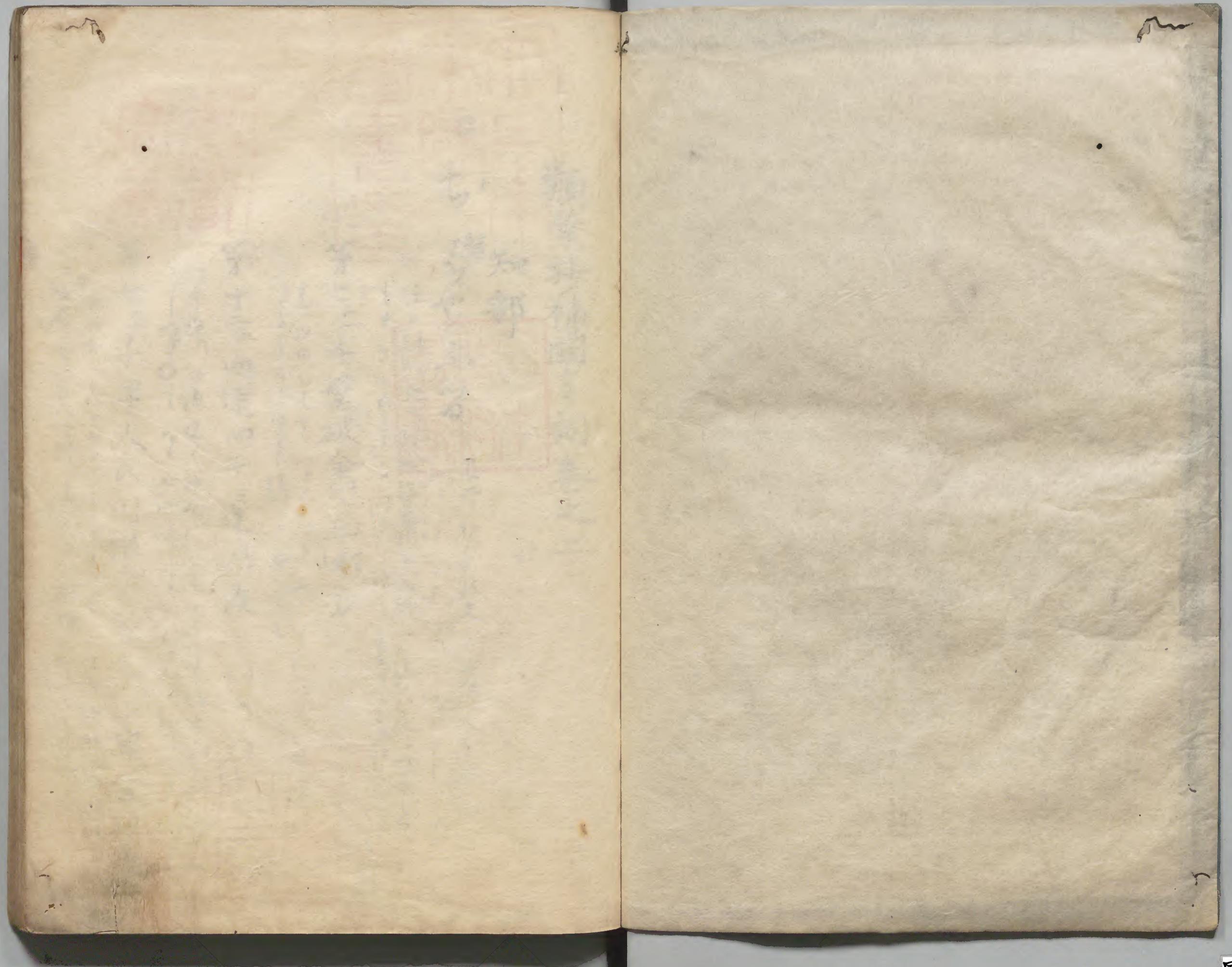
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM, Kodak





六廿四 時俗
ちん時

第十九世 時落山道
上句... 下句...

八廿九 時
ちん時

第十八世 散莫惜毛
第十世 散久

廿六 時
ちん時

第十七世 落卷
上句... 下句...

十八 時
ちん時

第十六世 散
上句... 下句...

廿七 時
ちん時

第十五世 散
上句... 下句...

十六 時
第五世 須河利許曾
上句... 下句...

廿七 時
今落長而之畧
長寄初分阿志
上句... 下句...

第七 時
智否
上句... 下句...

第八 時
知布
上句... 下句...

廿八 時
知布

上句... 下句...
知布

エ
エ

ぬるや川をの

同 茨河 八河 道之

まよ秋和。次白細江。川
人いふ。一。思ふ。こと。し。

四
世
三
十
七

ぬるや川をの

上のあひ。心。し。人。を。こ。す。か
大寺の。餓。鬼。乃。さ。く。へ。り。

第五 行額拜

注云。わらう。く。額。地。は。は。く。る。ぬ。は。る。
多。有。の。額。拜。ハ。義。訓。し。し。

ぬるや川をの

上の。芝。の。色。を。そ。者
搦。足。引。水。山。橋。を

ぬるや川をの

第六 行額拜

注云。ぬ。る。や。川。乃。通。り。不。通。し。た。と。つ。く。の
三月の。ち。う。す。通。行。有。し。

ぬるや川をの

和

ぬるや川をの

同 茨河 八河 道之

ぬるや川をの

第五 行額拜

注云。わらう。く。額。地。は。は。く。る。ぬ。は。る。
多。有。の。額。拜。ハ。義。訓。し。し。

ぬるや川をの

上の。芝。の。色。を。そ。者
搦。足。引。水。山。橋。を

ぬるや川をの

第六 行額拜

注云。ぬ。る。や。川。乃。通。り。不。通。し。た。と。つ。く。の
三月の。ち。う。す。通。行。有。し。

ぬるや川をの

第二 多氣波奴礼

第十 引奴良思

ぬるや川をの

第三 需者清

ぬるや川をの

第十一 沾在哉

第十五 沾小

第十八 新沾乍居者

七
世
三
十
七

三
世
三
十
七

第十三 蒙沾

第十八 新沾乍居者

第二十九 天也トハカト 将終登 第五 苗 抄 字信米

第十六 君時不終鳥 第十九 七 江 樂終者

十六 五

小集系
をへら

に 出

如字也 第五注にたのしきやへんハ手は現の
第三十畫 又経めれももりやし
又父も其はのつ以てううし
巴あはるを治と又つも

津云住吉ノ千度海とく毎年二月廿日トシ廿三ロコル 民俗
餐膳酒飲 托染りきやかりし 是迄凡おとつ了負あ
市に之のい 現本急ト集来ハハリハ 袖中抄中院家本
又宮本ニ存ハシソア 丸あノ行あそむト再出テ其合

をどろ

第五 三 字 押 利 抄 終 第十九 十 奉 騰 流 雉

二 高 三 高
をどろ 級
をち 方 時 の へ に

此文を右文に以て川草のつみ
あひいしは忘れぬや

二 一 甲

彼
をち 方 時 の へ に

第十 六 抄 越 方 余 第六 七 大 越 乞 尔 畧

第七 廿九 遠 近 疎 中 第六 七 大 越 乞 尔 畧

第十 七 廿六 字 知 久 知 ト 畧
アリ音通し後出

折
をて 押 頭

長考知り用障
深ク不萬の

第十 抄 折 而 押 頭 第十九 抄 折 而 押 頭 奈 畧

第十 八 抄 字 理 天 第十 抄 折 耳 折 而

第十 七 抄 折 七 不 折 第十 抄 折 耳 折 而

第四 抄 折 伏 第十 抄 折 雜

第十 抄 折 雜

十五

折りて

七多功の 唇部乃、前々若長
袖折、以の 折しりま

十六

折りて

長奇の 真島延、以の 之來
海留石 此注七文若之

十七

折りて

上夕其 神一、床すりい
まつと、法々月、の、の、

十八

折りて

長奇の 伊外 右

十九

折りて

長奇の 伊外 右

二十

折りて

長奇の 伊外 右

第十七

こちもて

折りて

折りて

折りて

第十八

こちもて

折りて

折りて

折りて

第十九

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十一

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十二

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十三

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十四

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十五

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十六

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十七

こちもて

折りて

折りて

折りて

第二十八

こちもて

折りて

折りて

折りて

離 欠惜

同 愛伎書等者

第十九 凡たのり 惜盛尔

第五 始遠志家騰

第十 凡たのり 情雲梨

第十三 凡たのり 情雲梨

凡たのり 情雲梨

凡たのり 情雲梨

情雲梨

をひゆるまでい

第三 凡たのり 子為里第九 凡たのり 子為流

注 凡たのり

和部

たのり

注 凡たのり

つら

第六 凡たのり 第十一 凡たのり

わ

わ 第六 凡たのり 水

は

は 第三 凡たのり

は 第二 凡たのり

わづり

第四里 佐穂度吾家之上二

是の邊の心し催馬子よの城のこゝろ乃りけるの
いこつとくといへるゝあかき一程あり

二廿 液相 乃ののの

長歩初め
海部

二廿 雜 乃ののの

九廿八 乃ののの

十八世三 乃ののの

工世 破 乃ののの

第十一七 破 乃ののの

一八 乃ののの

長歩初め
にりさ

四十五

わづり

注云つづきもつづきハ
注云つづきもつづきハ

第十七 乃ののの

乃ののの

五ノ世七ノ世

和久良波

第九 乃ののの

注云つづきもつづきハ
注云つづきもつづきハ

わづり

第十五 乃ののの

注云つづきもつづきハ
注云つづきもつづきハ

三十九

行事

五ノ世のののののの

己申し...
ほら...
ミヤキカワリ...
近コト...

同 忘日無

第五 和周良志奈ムカ

同 和周良延

第六 志而将念

第七 志来下

第八 志物曾念

第十 志者

忘

第十一 不志心

第十 志天志心

第十二 志

遺不得

第十三 志時無

第十三 志之ぬ

第十四 和須礼流

和須礼

第十五 和須良延

和須礼

第十六 和須礼年之太波

和須礼

己申し...
ほら...
ミヤキカワリ...
近コト...

第十七 和須良年

第十八 和須礼

第十九 和須良由

第十八 五河の夜麻波奈久も我

注云山のなつともあつ共欲得し

第十七 四野の奈泥之故我

注云とくはくちあひ

第十一 西鹿上苗牧

注云西鹿上苗牧の注云とくはくちあひ

第十九 盈盛有秋香乃吉者

注云秋ノ香ヨサハ鼻ノ入香ハあつす秋香の注云

第十二 八十梶夜種カ奴伎

注云下巻集申御掬りしとすりふとふハ知流あり

十三 四 撮

第八 不閉之代亦第十六 高嶽

六 四 下

九 七 是 長音加々

三 六 不 改

更 經 悲 見 若 跡 也

四 廿 九 不 更

第 十 九 更 布 掛 卷 也

上 下 尺 寸 下 寸 年 月 の 間 下 寸

第 十 七 等 伎 七 可 波 術 又 時 不 寧

かに 第四世の家 消蟹 口世 消者 消香二

第八世 安奴我尔 口世 霜毛置奴我二

第十サ 音之干蟹 第十一 左寐蟹 齒

第十三 銀光蟹 口世 飼日干

第十四 於布流我尔 口世 那利奴賢尔

けつよ せは 未洋 大り

かに 第十一 口世 可尔可久尔

第七世 左右将為子

第十 可尔迦久尔 口世 可尔可久尔

第七世 左右将為子

鹿煮藤 例

かに 第十六 左七右七

第十七 左七右七

かに もよこさし

注 かに もよこさし かに もよこさし

かに 第十四 和波左可礼 買信 口世 和波佐可流我信

第十五 於久流我尔

注 かに もよこさし かに もよこさし

かに 第十七 不肯盛

注 口世 不肯盛 不肯盛

かへむいゝあ

かへむいゝあ

可成理養須

顧尔

吾春

可成里見

可成理養須

延壽其者 性志耿介 不同水火 必達新向 勿顧生死 當百者 普到流

かへむいゝあ

可成理養須

第六 還

第七 還

第八 還

第九 還

第十三 還

第十五 還

第十六 還

第十八 還

第十九 還

上りたしひれのうけりり

上りあつまがめり

第二 顧

第九 何時

第十 可成

可成里見

可成理養須

延壽其者 性志耿介 不同水火 必達新向 勿顧生死 當百者 普到流

かへむいゝあ

可成理養須

第六 還

第七 還

第八 還

第九 還

第十三 還

第十五 還

第十六 還

第十八 還

第十九 還

第三 カヘリヌ 春奴 第十 カヘリヌ 春 益 間

是ホカヘリヌの春奴
若クモツ用しんる考

十九号

七 廿五

三 廿十

買 カヘリ 事

の意 カヘリ 須の

へる カヘリ 足

同子 カヘリ 還左尔

第十八 カヘリ づる カヘリ の カヘリ 神 カヘリ づる カヘリ の

十九 カヘリ づる カヘリ の カヘリ 神 カヘリ づる カヘリ の

第二十 カヘリ づる カヘリ の カヘリ 神 カヘリ づる カヘリ の

第二十一 カヘリ づる カヘリ の カヘリ 神 カヘリ づる カヘリ の

長考 カヘリ 加 カヘリ 尙 カヘリ 見 カヘリ 都

上 カヘリ 西 カヘリ 市 カヘリ 上 カヘリ 相 カヘリ 飲 カヘリ 酒 カヘリ 高

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

十八

北 カヘリ づる カヘリ の カヘリ 神 カヘリ づる カヘリ の

第十七 カヘリ づる カヘリ の カヘリ 神 カヘリ づる カヘリ の

第十九 カヘリ づる カヘリ の カヘリ 神 カヘリ づる カヘリ の

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

十六

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

十五

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

十四

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

以 カヘリ 夕 カヘリ 向 カヘリ 志 カヘリ 一 カヘリ 也

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 一てハ 易トシテ 易トシ

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 一てハ 易トシテ 易トシ

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 一てハ 易トシテ 易トシ

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 一てハ 易トシテ 易トシ

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

四十七

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

第十七 易て 第十七 鬼の 易而

注云 欲得し みて

第廿五 サトウ 草刈波可の 第廿六 サトウ 草刈波可

苗 サトウ 草刈波可 サトウ 草刈波可

注 上ノ位流海... 根のぬき... 土の返者...

ナサ サトウ 草刈波可

第七 サトウ 草刈波可

第九 サトウ 草刈波可

第十 サトウ 草刈波可

第十六 サトウ 草刈波可

注 草刈と... 厚本草部 出界之

四七 サトウ 草刈波可

第廿八 サトウ 草刈波可

注 草刈り... 菅家万葉... 草刈り

妹許妻許君許吾許等 祠出居所部畧之

第廿四 サトウ 草刈波可

注 草刈り... 上ノ位... 下ノ人...

第廿三 サトウ 草刈波可

注 草刈り... 草刈り

第六 不通の心

第十三 長人の通貫父

第十一 雖來

第十 往來垣の

第十 從蒼天徒來

第九 往來一君

第九 通

第八 將通君

第七 通

第七 通

第四 通乃君不來座

第六 通

第十 通

第九 通

第二 通

第二 通

彼依此依

石見乃海

彼依此依

四 共

相

上已出ア、和治一權馬樂徳首

一 北

西

加与利安比介利

九 世

第十 可太能

上夕出、又あて能志ヤツ

十 二

第十 可太能

二 可多比等

二 五

第十 可太能

上夕秋の、草花の、

七 八

第十 可太能

下夕君、あ、こ、

二 五

第十 可太能

上夕秋の、あ、む、

七 八

第十 可太能

上夕昔、あ、は、

七 八

第十 可太能

上夕昔、あ、は、

七 八

第十 可太能

上夕昔、あ、は、

第六^ノ又之^ノ語^ヲ冊^ニ入^ルハ^ハ一^ノ程^ノ語^ヲ嗣^シ思^フけ^ルニ^シ

第十三^ノ語^ヲは^ハと^ト第十四^ノ語^ヲは^ハと^ト第十五^ノ語^ヲは^ハと^ト

第十八^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

十九^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

二十^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

二十一^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

第二十四^ノ語^ヲは^ハと^ト第二十五^ノ語^ヲは^ハと^ト

第二十七^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

第二十八^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

第二十九^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

津^ノ將^ノ能^ルん^シア^トカ^ト道^ノ入^ルは^ハ文^ノ楚^ノ語^ノ

第十^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

第十一^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

注^ス江^ノ波^ノ一^ノ之^ノ日^ノ但^シ腹^ノ赤^ノ差^ノ座^ノ冬^ノ之^ノ時^ノ七^ノ日^ノ奏^ス之^ノ若^シ又^シ當^ル日^ノ有^ル也^ハ投^ス奏^ス返^ス

第十四^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

第十五^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

注^ス非^ノ代^ノ夫^ノ右^ノ事^ノに^ハ下^ノ鹿^ノノ^ノ肩^ノ骨^ノに^ハ取^ル取^ルと^シ也^ハホ^ノリ^テヤ^シ

第十六^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

第十七^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

第十八^ノ可^カ多^タ里^リけ^ルハ^ハ從^シ多^ク一^ノ界^ノ

十人

被^レれも^レ士^レる^レお^レど

上^レの^レ若^レ婦^レ子^レと^レな^レつ^レて^レな^レん^レハ^レヤ^レン
この^レの^レ若^レ婦^レ子^レと^レな^レつ^レて^レな^レん^レハ^レヤ^レン

第^二十六^二彼^レ字^レ飼^レ第^二十六^二彼^レ毛^レ令^レ受^レ年^レ等^レ

二廿六

教^レ見^レも

上^レの^レ時^レり^レの^レ形^レあり^レす^レ被^レ
下^レの^レ形^レあり^レす^レ被^レ

第^二十七^二教^レ見^レも^レ第^二十八^二教^レ見^レも^レ第^二十九^二教^レ見^レも^レ

十九

教^レ見^レも

長^レの^レ初^レの^レ桃^レ花^レ
前^レ夕^レ月^レ夜^レ

第^二十八^二教^レ見^レも^レ第^二十九^二教^レ見^レも^レ

四下

勝^レ旦^レ

注^レ古^レ事^レ神^レ紀^レ吾^レ加^レ都^レ賀^レ都^レ母^レと^レし^レは^レま^レり^レ以^レて^レ文^レ字^レ
注^レ古^レ事^レ神^レ紀^レ吾^レ加^レ都^レ賀^レ都^レ母^レと^レし^レは^レま^レり^レ以^レて^レ文^レ字^レ

十四

都^レ毛^レ

第^二十^二都^レ毛^レ第^二十一^二都^レ毛^レ第^二十二^二都^レ毛^レ

四下

潜^レ地^レ

第^二十二^二放^レ鳥^レ一^レ第^二十六^二放^レ鳥^レ一^レ第^二十九^二放^レ鳥^レ一^レ

第^二十七^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ第^二十八^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ

第^二十九^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ第^二二十^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ

第^二二十一^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ第^二二十二^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ

第^二二十三^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ第^二二十四^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ

第^二二十五^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ第^二二十六^二潜^レ取^レ真^レ珠^レ

かゝる

一幸夜も着金 一幸然而有金 第十七也

第十八也 第十九也 第二十也 第二十一也

第二十也 第二十一也 第二十二也 第二十三也

第二十四也 第二十五也 第二十六也 第二十七也

第二十八也 第二十九也 第三十也 第三十一也

第三十二也 第三十三也 第三十四也 第三十五也

第三十六也 第三十七也 第三十八也 第三十九也

第四十也 第四十一也 第四十二也 第四十三也

第四十四也 第四十五也 第四十六也 第四十七也

二五

かゝる

豫 志りせじ

一と云ふ人志りせじ

第三十六 志行通 豫 志りせじ

第六十七 豫 志りせじ

第九十七 已 離て 第十 志りせじ

第七 志りせじ

注云 志行通 豫 志りせじ

第十 志りせじ

第十一 志りせじ

第十二 志りせじ

三三

かゝる

悲

悲 志りせじ

上云 志りせじ

第十三 志りせじ

若冲云カラハ大ニ從ノ事ナリ又不叶ト有リ今案ニ遠記
同ニ物又無名ハ物徳ニ作カサ身也ト云リ合セ老

第十四世 可良余 第九世 可良余 柘

第十八世 可良余

注云此カラハ同ナリ神代記下雖復天神何徳
三衣之柘今人有娘し同ノ十ト云

上ノ志ノ此ありきりノ之は不
上ノ志ノ此ありきりノ之は不

注云此カラハ同ナリ神代記下雖復天神何徳
三衣之柘今人有娘し同ノ十ト云

上ノ志ノ此ありきりノ之は不
上ノ志ノ此ありきりノ之は不

第十五世 可良久毛 七 七

第十九世 可良久武 第十九世 柘可年

第十九世 可良久武

是ホの奇キモリラセムト有契冲云セシト点セハ誤シテ
セシトモ一ニ理あし人トモ一ニありト云 故出此ト云
一ニ云々一ニ云々の是清ん 柘ト云ハ 柘ト云ハ 柘ト云ハ
一ニ云々一ニ云々の是清ん 柘ト云ハ 柘ト云ハ 柘ト云ハ

神左備 居る島の水島

第六世 吉布 第七世 船石 第十五世 崎

第六世 柘 第十世 柘 第十五世 小松点

第十七世 第十七世 第十九世 不悉号 神祇部出

注云神总器カミトアリ假テ 澄正ルモ多ク加年シカサ
のニ可美ト云リ防人奇シ此れ多ク一又云依備五丈と云
一ノ依備ガ字を備神ナリ此と云ヒ心俗ニ云レウ
それぬがと云ヒ一ニ云ヒカサ七ニ神備ト云ヒ云レウ
一ノ依備ガ字を備神ナリ此と云ヒ心俗ニ云レウ
それぬがと云ヒ一ニ云ヒカサ七ニ神備ト云ヒ云レウ

彼 上ノ志ノ此ありきりノ之は不
上ノ志ノ此ありきりノ之は不

第十三 彼山也拓 第十四 昔可憐ころと
第 其彼心引けよらんめやも

第十五 由加久一之
第十七 奈氣可久子

第十八 如是もゆらん
第十九 如此所待者
第二十 一聞つや

第二十一 吹三更ハ
第二十二 第九モ
第二十三 第六十如是も又て
第二十四 第七ハ
第二十五 第六ハ
第二十六 第九モ
第二十七 第六十如是も又て
第二十八 第七ハ
第二十九 第六ハ
第三十 第九モ
第三十一 第六十如是も又て
第三十二 第七ハ
第三十三 第六ハ
第三十四 第九モ
第三十五 第六十如是も又て
第三十六 第七ハ
第三十七 第六ハ
第三十八 第九モ
第三十九 第六十如是も又て
第四十 第七ハ
第四十一 第六ハ
第四十二 第九モ
第四十三 第六十如是も又て
第四十四 第七ハ
第四十五 第六ハ
第四十六 第九モ
第四十七 第六十如是も又て
第四十八 第七ハ
第四十九 第六ハ
第五十 第九モ

第二十 吹三更ハ
第十九 第九モ
第十八 第六十如是も又て
第十七 第七ハ
第十六 第六ハ
第十五 第九モ
第十四 第六十如是も又て
第十三 第七ハ
第十二 第六ハ
第十一 第九モ
第十 第六十如是も又て
第九 第七ハ
第八 第六ハ
第七 第九モ
第六 第六十如是も又て
第五 第七ハ
第四 第六ハ
第三 第九モ
第二 第六十如是も又て
第一 第七ハ

如是 依等 現 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七 第十八 第十九 第二十 第二十一 第二十二 第二十三 第二十四 第二十五 第二十六 第二十七 第二十八 第二十九 第三十 第三十一 第三十二 第三十三 第三十四 第三十五 第三十六 第三十七 第三十八 第三十九 第四十 第四十一 第四十二 第四十三 第四十四 第四十五 第四十六 第四十七 第四十八 第四十九 第五十

如是

第四 四ノ 如是許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第十 是量 シヨリ 可也 カニ 猶多 ナラニ

次句の如きはめいめを芽る花
さきてありやとひい思ふ

曰 貴族如此 キコトニ 可也 カニ 第四 ノ 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第五 若 ニ 可也 カニ 第八 ノ 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第十六 可也 カニ 第十七 ノ 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

如是

細

第八 綏神 スエノカミ 香具播之 カクノハ 美 ミ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第廿 ニ 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 可也 カニ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

注之 應神記 乎 迦遇 波 志 文 之
乃 音 之 古 乃 香 細 心 之

如是

第一 ノ 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第三 ノ 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第七 ノ 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第十二 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第十七 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第二十二 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第二十三 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

第二十八 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ 曰 奈何 ナニ 幾許 カリハカリ

注之 乃 音 之 古 乃 香 細 心 之

かゝるもいふ才まき

是乃あつやむらうつてか
月乃あつやむらうつてか

第十^カ隱合時尔

は事^カ隱不得て人志

第十一^カ隱経月之節

注云かくらふはうのくらし
かくらひし印を風しとい

七^カ七^カ

隠^カ良^カ久^カく^カく^カし^カし

上句あねさす日かててせし
ぬえむのあつてる月め

第七^カ九^カ隱久惜毛 第九^カ十^カ隱惜毛

か^カ今^カ第五^カ我久利て 第十^カ四^カ隱可久里ぬ

第五^カ一^カ我久里 犹有畧

注云頭字にヤニ我便利也
真山隱をりし通

か^カく^カ第十^カ七^カ左波亦可久美為

注云に徳記ム分區弥夜懐利破。圍久也
清寧紀。圍後かこひり左波ナリ

第五^カ圍居而 第六^カ共知圍而

是亦本点アコシカハカカリしとくわ
空見津

か^カく^カる^カ事^カか^カ萬^カ歳^カ空見津

か^カく^カろ^カま

か^カ一^カ字脚注、不己出みのつてくろまをてつて
第十^カ三^カサ^カ踏^カ賜^カ香^カ運^カ安^カ世^カ外^カ多^カ共^カ七^カ七^カ十五^カ共^カ十六^カ七^カ犹有

か^カく^カゆ^カて^カし^カる

上句をいさやいおさなるの節
大坂すのり見多也

第^カ廿^カ七^カ麻^カ氣^カ利

注云孝徳紀曰秋農月不合便良縁造新宮同不權也深威ニ途大赦
天下も皇極記に中臣鎌子連便威所過而し是亦本心なる

か^カけて^カ志^カの^カい^カつ

上方山ニ一の風をすいしゆ
おちすたはあつても

